

■地域の安全・安心の実現へ 徳島県 宍喰川 総合流域防災事業

徳島県南部総合県民局県土整備部 (美波庁舎)
副部長 花田 務



宍喰川は、その源を海部郡海陽町中谷の山中に発し、流域をほぼ二分する支川の広岡川、坂瀬川を合わせ、平野部を貫流し太平洋に注ぐ、幹川流路延長13.6kmの二級河川であります。

流域は、上流部が標高400～900mの峰々からなる山地、中流部はかつて海岸線であった谷底平野、下流部は三角州性低地からなっており、夏に雨が多く、冬に雨が少ない太平洋側気候に分類され、年平均降水量は約3,160mmであり、県内で最も降水量が多い地域に属しています。



宍喰川では、河口から約3.6km区間の改修を昭和37年度から進めており、平成22年度末までに河口から約3kmが概成していますが、現在、河口から約3kmの位置にある固定堰の「馳馬堰」と、その上流の流下断面不足が治水上的問題点として残っており、平成16年の台風10号による豪雨では、堰上流において溢水による浸水被害が発生しており、これは堰によるせき上げが大きな原因と考えられます。

平成21年度からは馳馬堰の撤去に向けた代替施設の工事に着手し、平成25年度から堰上流の護岸工事を進めていましたが、平成26年8月の台風12号の豪雨により、流域で203戸におよぶ家屋の浸水被害が発生しました。

このため、平成26年8月の台風12号と同規模の出水に対し、再度災害を防止するため、国の災害対策等緊急事業推進費を活用して、平成27年の出水期までに河道拡幅及び護岸工を行うとともに、総合流域防災事業により堰の一部撤去を行い、流下能力を向上させました。

この結果、平成27年9月24日の大雨では、宍喰川において「はん濫危険水位」を超過する出水となりましたが、流域での浸水被害は発生しませんでした。

今後とも、引き続き、関係機関や地元住民と協力し、残る馳馬堰の撤去に向けた整備を推進し、浸水被害の解消を図って参りたいと考えております。



宍喰川・推進費による対策区間



宍喰川・馳馬堰

■地域の安全・安心の実現へ

海陽町長 前田 恵



海陽町は徳島県の最南端に位置し、南東の海岸線は太平洋を臨み、北は那賀郡、東は海部郡牟岐町に、西は高知県と隣接しており、北部・西部にあたる山地は1,000メートルにおよぶ緑豊かな山々がそびえています。

これらの山々を水源として、地域の中央には北から南に海部川が、南部では西から東に宍喰川が太平洋に流れ込み、青く美しい海岸は数々の岬や入り江を有する美しいリアス式海岸となっており、室戸阿南海岸固定公園に指定されています。

また、徳島県が全国一位のシェアを持ち、本町からその75パーセントが出荷されている特産の地鶏「阿波尾鶏」、促成栽培キュウリの他、様々な産業が育っています。さらに、本町出身のプロサーファーが度々全国グランドチャンピオンとなっている「サーフィン」に多くの若者が訪れ、町内に点在する全国的に有名なサーフポイントを楽しんでいます。

一方で、近年の気候変動による台風の大規模化や短時間に記録的な降雨があるゲリラ豪雨が各地で発生し、被害をもたらしています。近年では、平成26年の台風12号により、海陽町全域に避難勧告を発令する事態となり、宍喰川流域で203戸の家屋が浸水するなど、海陽町はじまって以来の水害となりました。

そこで県に対し、自然災害による被害軽減のため、河川改修等による浸水対策の促進を要望したところ、宍喰川においては、国の事業を活用して緊急的に河道掘削及び護岸の工事を実施するなど、浸水対策を進めていただきました。

平成27年9月24日の大雨の際には、宍喰川が「はん濫危険水位」に到達し、浸水被害が懸念されたことから、国と県に対し排水ポンプ車の出動要請を行う事態となりましたが、幸いにも排水ポンプ車を稼働させる状況には至りませんでした。これは、宍喰川の浸水対策を促進していただいた結果と考えており、町民は大きな安心感を得ています。

今後とも、県や地元住民と協力し、地域の防災力を向上させる様々な施策を推進して参りたいと考えております。



宍喰川「宍喰橋 (通称:かもめ橋)」



景勝地「水床湾」